

1 事業名等(Plan 1)

事業名	図書館図書整備事業											
所属名	市民活動部 生涯学習課 生涯学習推進グループ											
第七次総合計画	政策	4	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	分野	2	生涯学習	基本施策	1	誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境をつくる	施策	1	学習機会の充実
予算科目	9	4	5	図書館	費	94515	図書館管理費	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市図書館の設置及び管理に関する条例、高山市生涯学習振興計画											
事業の実施主体	市		市以外		指定管理者							
事業の実施方法	直営		指定管理		業務委託		団体等補助		その他			

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	市民(図書館利用者)	受益者数	93,822 人
	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	図書館を知的拠点施設とする。		
概要	事業の実施手法、手順	資料購入、配本等により蔵書の充実を図る。		
	事業始期・終期	始期	年度から	終期
			年度まで	設定なし
		○		
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入			

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
財源	総合計画計画額(当初)	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	
	総合計画計画額(計画額)	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	
	事業費	30,000	30,000	30,000			
	(計画・予算・見込・決算額)	30,000	30,000				
	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
	繰入	予算額					
決算・見込							
一般財源	予算額	30,000	30,000	30,000			
	決算・見込	30,000	30,000				
H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%				
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	312	312		
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	932	932		
指標	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人				
	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位	円/人				

【成果面】

活動・成果指標	活動指標 (投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	資料・出展 算出式							単位
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
活動	目標値									活動の方向
	実績値									
	達成率									
成果	目標値			47,090	49,567	52,044	54,521	57,000		成果の方向
	実績値	41,938	44,613							
	達成率			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

4 分析・評価(Check)

**①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)**

(現状及び判定理由)	データベース化等により、効率的な資料の提供や蔵書の有効活用ができるようになった。今後も引き続き蔵書の充実等、図書館機能の充実を図る必要がある。	A: 非常に高い	目的評価 <b>A</b>
		B: 高い	
		C: 低い	
		D: 非常に低い	

---

**②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)**

該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少	維持	<b>1</b>	増加
(判定理由)			
事業費は、横ばいで推移している。			

---

**③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)**

該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大	<b>1</b>	維持	減少
(判定理由)			
図書館利用登録者数は増加している。			

項目 ②コスト面

	増加	維持	減少
③成果面	拡大	<b>○</b>	
	維持		
	減少		

コスト・成果ポジション  
**B**  
**第2水準**

---

**一次評価 主管課**

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

判断の理由  
「知の拠点施設」として図書整備事業は継続が必要である。

---

**分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点**

利用者ニーズに応じた資料の購入、配本等により蔵書の充実を図る必要がある。

---

**5 今後の方向性(Action)**

評価結果に対する改善提案(下記チェック)

現状維持 ■ 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了

・利用者ニーズに応じた資料の購入、配本等を行う。  
・レファレンスサービスの充実を図る。

活動の方針  
次年度の実施方針  
同上

---

**総合評価**

コスト	成果	評価区分
<b>中</b>	<b>中</b>	<b>III</b>

判断の理由等  
「II」以上の水準に向けた改善が必要

利用者のニーズに応じた資料の購入や配本等により蔵書の充実を図る必要がある。また、利用者の知りたいこと、調べたいことに対して必要な情報や資料などを入手できるように支援するレファレンスサービスの充実を図る必要がある。